

レアメタル市況予測 メタルドゥ・藤田社長が寄稿

今後はニッケルが横ばい、コバルトが強含みも

レアメタル市況は、08年秋のリーマンショックで急落していたものの、昨年は主要国による財政出動や金融緩和のほか、中国など新興国需要が好調で、相場が回復に向った。今年1～3月のニッケル、コバルト相場について、藤田國廣氏（メタルドゥ 社長）に寄稿してもらった。

Ni 相場は LME 在庫の増加にもかかわらず回復に向う

ニッケルの09年10～12月の LME 相場の動きは、不可解である。LME 在庫は12万tから15.4万tへと増加し、中国内にも官民合わせ12～13万tがストックされているにもかかわらず、価格は1b当り7.97ドル（t当り17,565ドル程度）から一時7.17ドル（同15,810ドル）へと下げたが、年末にはここから8.55ドル（同18,855ドル）へ20%も上昇した。取引所のシステムやマーケットの多様性からいえば、起きうことではあるが、一般的ではない。

主要国の金利が当面大きく上昇しないことを考えると、資金の流動性は従来どおり高いため、一部は比較的に安全な資源関連で投機的に動くと考え。実需では、中国の12月製造業指数も20ヵ月ぶりの高水準で、同国の原材料在庫指数も2ヵ月連続で過去最高。中国では受注増加のほか、原材料価格の先高感を受け、在庫積み増しが行われていると考えられ、（中国人民銀行の）金融政策の強弱にもよるが、今年1～3月は続くと思われる。今年1～3月の相場は、在庫量と価格の異常な関係がどこかで調整されると考

レアアース輸入価格 金属 Nd が \$30 台に回復

金属レアアースの昨年12月の輸入価格（kg当り、CIF 日本）は、ネオジウム（Nd）が30.4ドルと前月比10%値上りし、08年9月以来1年3ヵ月ぶりとなる30ドル台に回復した。プラセオジウム（Pr）が28.2ドルで同比3%高、ジウム（Di。主に Nd と Pr の混合希土）が28.1ドルで同比3%高。日本の Nd-Fe-B 系焼結磁石3社のうち、Di を主原料とする2社が金属 Nd の比率を高めており、今後も Nd と Pr・Di 価格が異なった動きをみせる可能性がある（09年の相場推移は2月1日号に掲載予定）。

インジウム建値 5.8～6.3万円/kgと3ヵ月連続据置き

DOWA エレクトロニクスは、1月4日出荷分以降のインジウム生産者建値（99.99%、kg当り）を大口58,000円、小口63,000円と、昨年10月1日出荷分から据置いた。

えなければならないものの、1b当り8.16～9.07ドル（t当り18,000～20,000ドル）で推移すると考える。

コバルトは需要回復と LME 上場の期待感で \$20～25へ

09年10～12月の LME 相場では、99.3%品（Low Grade）が1b当り14.5ドルから一時軟化したものの、年末には19.75ドルと36%も上昇した。こうした相場は、リチウムイオン電池（LIB）の好調な需要予測のほか、航空機や発電用タービンなど各種スーパーアロイの需要回復もある。さらに今年2月22日のコバルトの LME 上場への期待感からと思うが、当面この傾向が続くと考えられる。今年1～3月の相場は20～25ドルに向うと予測する。